

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

## 傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、  
ミライとモンダイを考える。

## 京都市基本計画審議会

レポーター 藤川 祐輔さん



香川で生まれ、東京で育ち、京都で学ぶ立命館大学政策科学部の3回生。第6回政策系大学・大学院研究交流大会学生実行委員長を務めています。

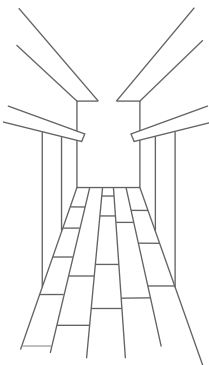
## 第7回まちづくり部会

開催日：平成22年7月29日(木) 会場：消防局本庁庁舎

主な議事：基本計画第2次案の検討について(建築物、住宅、消防・防災、くらしの水)

## POINT

1

まちなみの問題を  
融合していくには!?

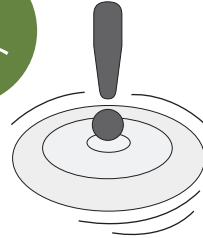
「既存建築物などの安全性を向上していくべきだが、京町家などの耐震化は難しく柔軟に対応していくことが必要ではないか。」「文化的問題と安全安心の問題を両方達成しようとする矛盾も生まれるが京都の町に合った施策を展開してほしい。」といった議論がありました。また「京都は細街路が多いので、体系的に細街路の問題を考えていく必要がある。」との意見もありました。

会議の  
ポイント

## POINT

2

## 京都の水文化を守るには!?



「最近では、堀川の水辺などが復活しているがほかにも水辺を復活させてほしい。」「水道事業の経営安定のために財政に頼らない経営手法を検討してみてもどうだろうか。」「琵琶湖流域圏の広域水系の理解、水の重要性、利水や治水を含めて考えてほしい。」との議論がありました。

会議を傍聴して思ったこと

今回の会議では推進施策に関しての意見出しが行われました。話し合われたどの分野にも共通するのは「京都ならではの」ということだと思います。たとえば建築物に関して京町家のことが議論にあがっていましたが、国が定める基準に基づいて規制などを行っていくと、京町家は既存不適格になっていきます。しかし京町家は京都の文化や歴史を語るうえで欠かせないものであると思います。また住宅の分野ではコミュニティ形成の話が出ましたが、京都の町のコミュニティは他都市にはない独自の文化を持っていると思います。それらの「京都ならではの」部分を基本計画ではどのように補っていくのかが、焦点になるのではないかと傍聴しながら感じました。

「京都ならではの」文化と規制をどのように折り合わせていくためには、「京都ならではの」とは何かを知る必要があると思いました。なぜ「京町家」が重要であるのか、なぜ「コミュニティ形成」が重要なのか基本計画でも歴史や文化と照らし合わせて議論していくことが必要ではないでしょうか。また議論でもありましたがパブリックとリパブリックの間の考え「コモン」を意識しつつ規制を行っていくことが必要であると考えます。

京都の未来に向けて  
思いを馳せること

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。  
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

